

題目 裏切り回避傾向がゲーム行動に及ぼす影響の検討

氏名 三浦亜利紗

指導教官 山岸俊男

本研究は、現代社会で重要性を増してきている信頼行動について、その規定因の一つである裏切り回避傾向の特質を明らかにするために行った。これまで、信頼行動の規定因としては、認知的要因や社会的選好、またリスク選好などが考えられてきた。しかし近年、新たにリスク選好について、ギャンブルなど一般的なリスクに対する選好と、社会的文脈の中で生じるリスク選好とを弁別しようとする研究が行われている(Bohnet & Zeckhauser, 2004)。社会的なリスク選好は、裏切り回避傾向、つまり相手に裏切られ、搾取されるというリスクに対する傾向として研究されており、それは信頼行動や協力行動を測定する実験ゲームと強く相関することが確認されている(李ら, 2010)。しかし現在のところ、信頼行動の定義や裏切り回避傾向の測定方法は研究によって異なっており、Bohnet & Zeckhauser (2004)などが用いている測定法では特に、参加者に熟考を要するため現実的な行動プロセスを反映していない可能性がある。

そこで本研究では、信頼行動を実験ゲームにおける協力行動と限定し、裏切り回避傾向は「二者間の相互作用状況において生じる、相手に裏切られる可能性を回避する傾向」と定義して、最もゲーム状況に近い単純な測定課題を開発した。社会的なリスク選好の一側面であると考えられる裏切り回避傾向が①信頼行動の他の規定因とは独立であるか、②ゲーム行動の規定因の一つであるか、③ゲーム状況だけでなく、日常的な相互作用状況におけるリスク回避傾向とも関わりがあるか、④IQ やパーソナリティ、人や社会に対する信念とどのような関わりを持つか、について検討するため、開発した課題といくつかの実験ゲーム、質問紙調査問の相関を分析した。

結果、裏切り回避傾向は、①認知的要因とは関連しないものの、他の選好とは相関すること、②二者間の期待に関わる実験ゲームと相関し、他の信頼行動の規定因に比べて非常に大きな説明力を持つこと、③日常的な相互作用状況においては、負の見返りの可能性がある場合の嫌悪感情と弱い相関を示すこと、④IQ の影響を強く受け、報復欲求や嫌悪感情と関連があること、などが示された。また本研究は、裏切り回避傾向が二義性を持つ可能性を示唆し、今後の研究に指針を与える結果となった。(965 字)